

(9) 巡礼第5日、アルスアから  アルカ (ペドロソ) まで 18.8 キロ

10月25日(木) 巡礼第5日、9:00、今日も遅めの出発。アルベルゲ近くの教会の前で祈る「今日の18.8キロ、特に病気で苦しむ人々に捧げます。どうかお受け下さい」と。薄暗い聖堂の中では地元のご婦人達7~8人が朝の祈りを唱えていた。

出発時刻が遅かったので少しスピードアップ、始めは起伏の少ない比較的平坦な山道を(写真下)快調に進む。



今は廃墟となって全く住人のいない古い石造りの家が散在するサルセイダ村を通過(写真下左)、その村の出口に“オーレオ”という木組みで高床式の、日本の“校倉造り”を小さくしたような穀物用の貯蔵庫が道をまたいでいた。(写真下右)



暫く進むとバルがあったが巡礼者で一杯なので通過、少し先まで行って岩に腰掛けて休憩、マドレーヌ、パイ包み菓子を頬張った。傍にあった特大のゴミ溢れて散らばっているゴミを竹内が全て拾い集めて「世界環境保全に貢献！」と言いながら籠に押し込んだ。日本人としてせめてもの“罪滅ぼし”でもあった。というのは、我々が歩いてきた“世界遺産の巡礼道”の道標にマジックインクで「来たぞー」と“八重樫 某”の名前入りで落書きされているのを何か所も見えてきたからだ。「日本人の恥だね、このバカッターレメが！」



この先にサンタ・イレーネのきつい峠越えが待っている。石川が靴を脱いでアンポージャ＝足のマメを予防するためにオイルをたっぷり塗り込んだ。（写真上 左）

峠を越えれば後は下り坂、道の左側にはうす紫色した大きなアジサイ、右側にはサッカーボールの一回りも二回りも大きなみず色が群れていた。少し離れて一株だけ、大きくて真っ白なアジサイが、マリア様のように静かに輝いていた。

道標の表示はあと“20 キロ”、そろそろアルカの町だ。町のかかり手前に Hotel O Pino の新しい看板があった。巡礼道から右に 150 メートル程入った車道沿いに木造の落ち着いた 2 階建てのホテル。（写真下） すぐにシャワーを浴び、洗濯。一角が洗濯干し場になっている裏庭の美しく手入れされた芝生に白いテーブルが並び、例の 4 人組がセルベッサを飲みながらお喋りの真っ最中。我々もホテル・レストランで久しぶりにゆったりとした昼食の時間を過ごす、定食 11 ユーロ。これが一人分か？とびっくりするほど山のように盛られたマヨネーズで和えた野菜サラダ、しっかり煮込んだ牛肉のシチュウーにパン、ミックス・フルーツのデザート。ワインは控えめにした。（続く）

